

世界に向けて 緑の再生を発信



11月29日、総合体育館西側で第2回いのちを守る森づくり親子植樹祭が行われました。

この植樹祭には、公募市民や遠くは宮城県仙台市からの参加者のほか、JICA研修生なども参加し、総勢約400人が集いました。開会式では、宮脇昭横浜国立大学名誉教授が、植樹する木や植え方を説明し、「行田から世界に向けて緑の再生を発信しましょう」と呼びかけました。

好天に恵まれて気温が上がり、汗をかきながらの植樹作業も楽しそうに行った参加者たち。シラカシやアラカシなど約3,000本もの苗木を1時間ほどで植え終えた参加者は、未来の森に思いをはせているようでした。



仲間のため懸命に

11月22日、総合公園およびその周辺を会場に第53回“浮き城のまち行田”駅伝競走大会が開催され、市内外から全96チームが健脚を競いました。

3,090mと1,150mのコース、13部門に分かれ、5人一組でたすきをつなぐ今大会。参加した選手たちは「ラスト、ファイト」などと声を掛けながらチームメイトが来るのを今か今かと待ち、次に待つ仲間のために懸命に走っていました。



歓声上がる一挙手一投足

11月28日、市制施行60周年記念行田市ドッジボール大会がグリーンアリーナで開催されました。

小学3年生以上の児童が中・高学年部に分かれて行われた今大会では、29チーム約400人が参加しました。素早いパス回しからの攻撃や果敢にボールをキャッチする姿など、選手の一挙手一投足に会場から歓声が上がっていました。